資料３

【平成 30 年度　新潟市事故報告件数】

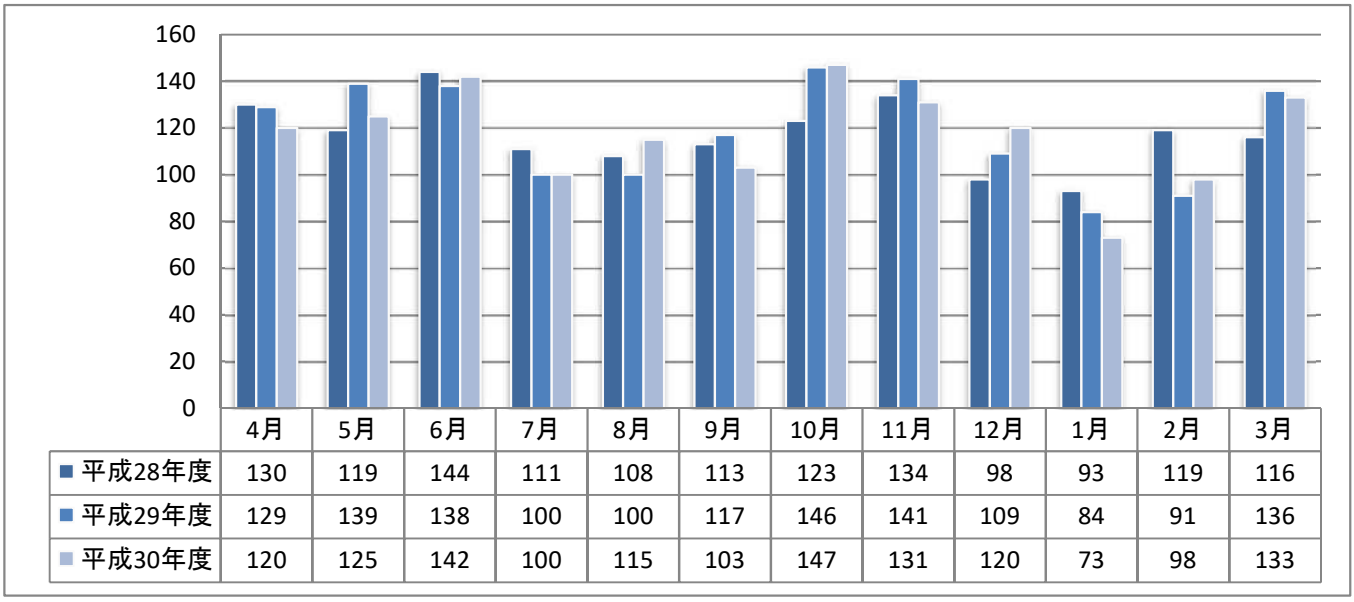
事故報告件数（H30.4 月～H31.3）

＊ 事故報告件数は、公私立保育園・認定こども園・地域型保育事業施設の合計

平成30年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
報告件数(合計)＊		120	125	142	100	115	103	147	131	120	73	98	133	1407
部位	骨折	8	3	8	4	6	3	5	6	4	3	5	6	61
	口・歯	28	43	44	33	45	34	48	38	37	27	27	41	445
	目・目の周り	12	18	13	12	14	10	18	15	12	4	10	17	155
	肘内障	10	13	9	14	10	7	13	13	16	5	12	7	129
	その他	62	48	68	37	42	49	63	58	50	34	44	62	617
うち県・国への報告		**2**	**1**	**1**	**0**	**1**	**2**	**1**	**1**	**0**	**1**	**2**	**2**	**14**

平成 30 年度は、年間１４０７件の事故報告がありました。
部位別に件数を見るとやはり「口・歯」に関する事故件数が多いことが分かります。その他の中には火傷・打撲・擦過傷等が含まれています。

【月毎の事故報告件数】

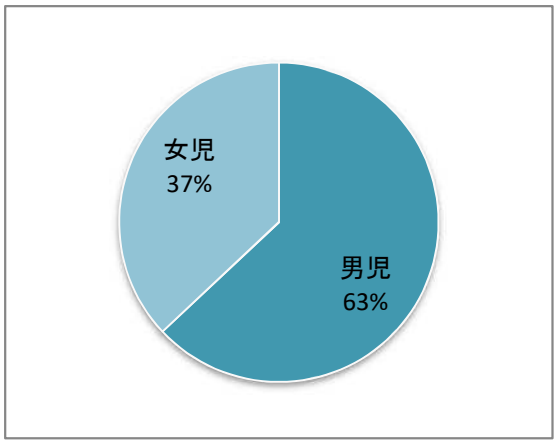


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成28年度	130	119	144	111	108	113	123	134	98	93	119	116
平成29年度	129	139	138	100	100	117	146	141	109	84	91	136
平成30年度	120	125	142	100	115	103	147	131	120	73	98	133

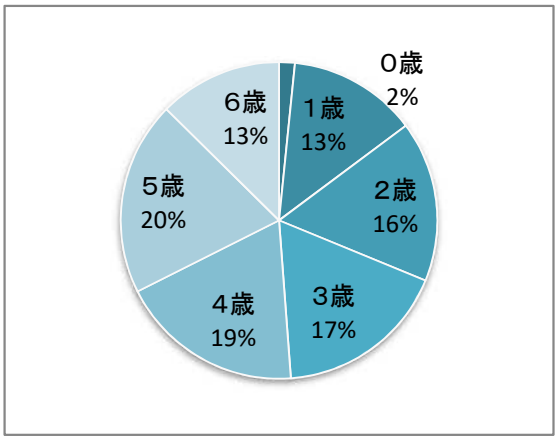
月毎の事故報告件数について平成２８年度～３０年度を比較すると、新年度がスタートし、園生活に慣れるまでの間（４月～６月）と戸外活動が盛んになる秋（１０月～１１月）に事故報告件数が増え、暑い夏、寒い冬の期間に減るという傾向が概ね一致しています。

季節ごとにどのような事故が多くなるのか、各保育施設でヒヤリハットや事故報告を通して把握し、大きなケガに繋がらないようにしていきましょう。

【平成 30 年度年間事故報告件数男女比】



【平成 30 年度年間事故報告件数年齢比】



	合計		
	男児	女児	年齢比
0歳	17	6	2%
1歳	103	83	13%
2歳	152	79	16%
3歳	156	91	18%
4歳	182	82	19%
5歳	171	108	20%
6歳	103	74	13%
小計	884	523	
計	1407		

男女比　男児　63%　女児　37%

「男女比」については、男児 63%　女児 37%と圧倒的に男児の事故が多いことが分かります。
「年齢比」については、どの年齢も同じくらいの割合で発生していますが、３歳～６歳（満年齢）が事故報告件数の 69%となっています。運動機能も発達し、チャレンジする気持ちと共にリスクが高まっている結果と言えるでしょう。

＜リスクとハザード＞

遊具は、子どもに楽しい遊びを提供する大切な道具です。遊びにはある程度の危険が伴うもので、この危険への挑戦が楽しさにつながり、さらには危険を回避する能力や、危険を予知する能力が養われます。**遊びの楽しさに伴う危険**を「**リスク**」といいます。一方、遊びの楽しさに無関係で、**あってはならない危険**を「**ハザード**」といいます。

「ハザードの例」

一般社団法人日本公演施設業協会（JPFA）編集発行
「仲良く遊ぼう安全に」より引用

◆物のハザード

・道具の腐食、摩耗、劣化、ネジなどのゆるみの放置。

・はさまりやすい隙間、引っかかりやすい突起、つまずきやすい遊具の段差や塗装面の凹凸な遊具そのものの危険。

・子どもの流れがぶつかるような遊具の配置。

・遊具から落下するかもしれない所にコンクリートの基礎が露出している。

◆人のハザード

・遊びながらふざけて押す、突き飛ばす、動く遊具に近づくこと。

・管理者の指示する内容に反する危険な行動をとる、例えば「使用禁止」の遊具で遊ぶこと。

・からまりやすいヒモのついた衣服やマフラー、カバン、水痘などを身に付けたまま遊ぶこと

・対象年齢にあわない遊具で遊ぶこと。

・一人乗りの遊具にたくさんの子どもが乗ること。

平成 30 年度
保育課へ届いた年間事故報告件数

１４０７件

公立保育施設	７２７件
私立保育園	４３３件
認定こども園	２３３件
地域型保育事業施設型	１４件

うち　重大事故等件数

１２０件

骨折		６１件
歯・口腔内		１件
縫合		４９件
その他		９件
＜内訳＞	打撲	１件
	やけど	６件
	誤嚥	１件
	切創	１件

※重大事故の中に４件　救急搬送あり

うち　国報告対象の事故件数

１４件

（全報告件数の約 1.0%）

＜公私別＞
公立　４件
私立　１０件

＜男女別＞
男　９件
女　５件

＜年齢別＞
３歳　２件
４歳　５件
５歳　６件
６歳　１件

＜内容別＞
骨折　１３件
まぶた裂創　１件

＜施設別＞
保育園　５件
認定こども園　９件

平成３０年度　事故報告の年間をまとめると上記のようになります。

平成３０年度は、年間１４０７件の事故報告がありました。比較的軽微なケガから国報告対象となる大きなケガまで様々あります。

「重大事故」については、「骨折（ひびも含む）」の５８件に次いで、「縫合を伴うケガ」が４８件と目立ちました。「やけど」については、制作やクッキング、生活体験を行った際発生したものでした。グルーガン等火傷の可能性があるものを使用して活動する際は、その使用方法、手順等十分に安全が確保されるよう配慮し、事故につながらないようにしましょう。

子どもたちの事故の傾向を知ることが事故予防につながっていきます。事故が発生し受診した場合は、事故報告書の提出をお願いいたします。（各区指導保育士へ FAX で報告）